

神奈川県立子ども医療センターオレンジクラブ



ボランティアニュース

263号 2026年 3月

発行 神奈川県立子ども医療センター オレンジクラブ事務局

編集責任者 ボランティアコーディネーター 加藤 悦典

〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 Tel. 045-711-2351 (代表)

ホームページ <https://orangeclub.kcmcvolunteer.com>

ブログ <https://blog.kcmcvolunteer.com>



「オレンジクラブ50周年記念行事を振り返って」

オレンジクラブ代表 三木美雪

本年度は、オレンジクラブにとって50周年を迎え節目の年になりました。歴史をたどっていくと、なんと多くの方々ボランティアに参加されてくださり、ボランティアコーディネーター、子ども医療センターの医師、看護師、事務局職員、広浜食堂、子ども医療センターで働かれている職員の皆様の応援をいただいて、オレンジクラブの活動が50年間続いてきました。半世紀の活動は、時代を超えて発展してきました。未来に向かって多くの皆様がオレンジクラブの活動に参加される事を願っています。詳しい歴史は、「50周年記念誌歩んできた道」の冊子で紹介しています。患者図書室でも閲覧できます。どうぞご覧ください。

年2回行われている運営会議では、普段おこさんが、病棟や外来待合で楽しんでいるイベントを職員の皆様に童心にかえて体験していただきました。フラダンスを踊ったり、クラウンさんの芸を見て大笑いしたり、園芸グループが丹精込めて育てている屋上庭園を見学したりしました。この庭園は入院患者さんの散歩コースで人気です。また、シャボン玉グループは、おこさんが病棟で遊ぶ楽しいおもちゃを展示しました。作業グループは、折り紙3枚を使い、みんなでコマを折ってみました。みんな真剣そのものです。作業グループの折り方の手ほどきもあり、コマが完成しました。



「スマイリングホスピタルジャパン」バルーンアート瞳さんから、一足早い春のバルーンのプレゼントがありました。受け取られた、後藤医師、中島事務局長、樋口看護局長、加藤コーディネーターの皆様は満面の笑みです。いつも総合待合で、演奏と歌を披露している音の絵本グループの歌に

聞き惚れ、読み聞かせグループぼぼんたの手遊びを一緒に体験しました。大人の私たちも、心の底から時間を忘れて楽しみました。普段はお忙しくボランティアの活動を見る機会のない医療スタッフの皆様に、実際の活動を見て体験していただけたことは貴重な時間でした。



病院で長い待ち時間を過ごすおこさん、入院生活を送らなければいけないおこさんは、ボランティアがいることで、さぞ楽しい時間を過ごすことができていることでしょうか。医療センターに来ると痛い注射をされたり、苦いお薬を飲んだり、痛みと戦う日もあったり、辛い毎日です。診察が終わり帰り際に、ご褒美の折り紙を選んでいる嬉しそうなおこさんの姿をよく見かけます。寂しい気持ちを我慢して頑張っているごきょうだいのおこさんを預かるきょうだいおあずかりグループもあります。親御さんも、つるし雛、5月のこいのぼり、七夕、夏のおさかな、クリスマスツリー、お正月飾り、そして絵馬など、季節の飾りつけを目にしてほっとして下さっているのではないのでしょうか。総合待合でミルクティによる演奏、体育館でのフットサル、オレンジクラブマルシェでは、手作りグループさんのお手製のお気に入りの品を買い求めることもできます。病気について調べられる患者図書室、壊れたおもちゃを修理してくれるおもちゃの病院、病棟からの依頼で縫製作業を地道にしてくれる縫製グループ、重心施設ひだまりで、衣類の整理をする重心グループ、盲導犬と遊ぼうのグループは、盲導犬を連れて病棟を訪ね、生演奏を病棟に届けるあっちこっち、病院の長い廊下通路の飾りつけグループ、フラワーアレンジメントによる季節の花々が院内に色どりを添えています。いつでも気軽に声をかけられる外来ボランティアがいる安心感は格別です。外来の廊下には、おこさんと一緒に絵を描く子供医療基金、病棟のおこさんとストレッチャーで屋上にお散歩に出かける病棟ボランティアもあります。年2回ミニバザーも患者さんご家族、職員の皆様にも楽しんでいただいています。個人で作品を届けてくれたり、コンサートを開いたり、サンタさんの訪問があったり、多くの方々が院内で活動してくれています。小さな力が、一つまた一つと合わさって

大きな力になっています。オレンジクラブ一同「あなたの元気と笑顔のために」、これからも活動してまいります。でも実は、私たちボランティアはおこさん、ご家族の皆様から元気と勇気をいただいています。本当にありがとうございます！

私のボランティア活動

総合診療部 田上幸治

多浪を経て京都大学農学部に進学したものの、活躍する旧友と自分を比べ「自分は何をやっているんだろう」と葛藤する日々でした。そんな自分を変えたのは、障害児ボランティアでの出会いです。自閉症の子どもたちと山やプールで過ごしながら、子どもたちからたくさんのことを学びました。養護学校にかかわるようになって、かつて歩いていた子が進行性疾患で寝たきりになる姿を目の当たりにしました。「この子どもたちのために何ができるか？」——その問いの答えを求め、大学3年で医学部再受験を決意。和歌山県立医科大学へ進学し、小児神経科医の道を歩み始めました。

2010年より神奈川県立こども医療センターにて、てんかんや神経発達症などの診療にあたっています。日々向き合う中で直面したのは、何の罪もない乳幼児が被害に遭う「虐待」という過酷な現実でした。保護者からのクレームや他機関との連携など、現場には多くの困難がありますが、「誰かが踏ん張らなければ社会は変わらない」との信念で取り組んでいます。特に「魂の殺人」と呼ばれる性虐待・性暴力は、日本が解決すべき最大の社会課題の一つです。欧米では、子どもに優しい環境で「聞き取り・診察・心のケア」をワンストップで行う「Children's Advocacy Center

(CAC)」が普及しており、全米には900か所以上存在します。こうした機能を当センターでも実現したいと考え、まずはボランティアの方々と共に、DIYで司法面接室を設営しました(図1)。2022年からは文部科学省の研究費を受け、医療をハブとした「日本型CACモデル」の社会実装に取り組んでいます。どんなに辛い経験をした子どもたちも、その後の人生を幸せに歩めるよう、これからも全力を尽くしてまいります。性被害をうけた子どもたちへの心理教育のビデオを作成し、病院HPに掲載しています(図2)。



オレンジクラブ様と共に、心に残る活動を行いました。当センターの敷地には多くのソメイヨシノが植えられていますが、2019年の台風で裏庭の一本が倒れてしまいました。しかし驚いたことに、翌年3月、その倒れた桜が力強く蕾(つぼみ)をつけていたのです。その圧倒的な生命力に胸を打たれ、「この感動を皆様と共有したい」と加藤さんに相談しました。倒木から切り出し、ロビーに活かされた桜は数日後に見事な満開となり、職員や患者ご家族の心を癒やしてくれました。



また、広浜食堂の公開広場の整備や看板制作、季節の飾り付けなど、子どもたち、家族、職員のために、当センターの環境を彩る活動を今も大切に続けています。

※ 田上先生には第54回ボランティア研修会で講演していただきました。

ボランティアコーディネーター 加藤 悦與

3月イベント

月	火	水	木	金
2	3	4	5	6
おもちゃ クリーン 10:00~11:00 こころ 14:00~15:00	クラウン外来・ 肢体 ボランティア調整会議 14:00~	SHJ 15:00 4西		
9	10	11	12	13
おもちゃの病院	アートワークショップ 5南 14:00~ 盲導犬こころ 14:00	ぼぼんた 5南4東つばさの木	肢体つばさの木 SOC10:15 オンライン あっちこっち こころ	
16	17	18	19	20
フットサル 5西 外来: 体育館 16:30~	クラウン: 外来 14:30 4南 ひろちゃんとフラダ ス重心総合待合	SHJ 15:00 5西		
23	24	25	26	27
	ピアノ・歌・フルート コンサート 重心 14:00~14:30 総合待合 14:50~15:20	ぼぼんた 4西4南 HCU2 キッズイベント チャイルドウィッシュ 総合待合・クリーン	音の絵本 重心・総合 待合 SOC 15:00 オンラ イン (全病棟) エリックさん ライブ	

オレンジクラブでは、神奈川県立子ども医療センターのクラウドファンディングへの挑戦を応援しています。多くの方にこの取り組みが広がっていく事を願っています。



クラファンの進捗状況を示すお菓子の家です。オレンジクラブの皆さんが協力して飾っています。